

2023年度学校評価【西南学院中学校・高等学校】

建学の精神および学校法人西南学院の使命

学校法人西南学院は、「西南よ、キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人格を育てることを使命とする。

建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」という言葉は、Lで始まる4つの英単語を用いて表され、本校では、チャペル講話をはじめ様々な教育活動においてこの4つのLを取り入れて具体的に実践している。

- ・L i f e（生命）：すべての人命を積極的に尊重すること
- ・L o v e（聖愛）：真の神を礼拝し、他者に奉仕すること
- ・L i g h t（光明）：知なきところに真理の光を掲げること
- ・L i b e r t y（自由）：責任ある自由をもって行動すること

学校法人西南学院のビジョン

- ①人間育成：キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- ②教育研究：確かな教育力と新たな知と価値の創造
- ③国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- ④地域貢献：進化する福岡とともに歩む学校としての自覚と協働
- ⑤経営基盤：永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

西南学院中学校・高等学校における教育の目標

- ①かけがえのない“L i f e（いのち）”を大切にすること
- ②“L o v e（聖愛）”の実践を通して、隣人に仕えること
- ③“L i g h t（世の光）”として、平和構築に貢献すること
- ④真理を探求し、真の“L i b e r t y（自由）”を得ること

西南学院中学校・高等学校における学校評価の進め方と2023年度の重点目標

建学の精神を堅守しつつ、生徒一人ひとりの個性と適性を尊重した教育を目指す。また、国家、地域、年齢、言語等を超えた、多様で普遍的な価値観に対応できる平和を実現する人の育成を継続するとともに、ポストコロナ時代における学びのニューノーマルを想定し、将来に向けた健全な財政計画に基づいた教育体制の点検と整備を進めることを目指す。

ビジョン	中長期事業計画					2023年度事業計画案		2023年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2023年度の具体的計画内容	担当部署	2023年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成 ①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	1	「平和をつくりだす人間教育」「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の反映と浸透	1	中・高	チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切に教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	人権・「同和」学習の継続的な実施と充実	チャペルやミッション・ウィークを通じて、自他に与えられたいのちの尊さを深く理解する機会を設け、さらなる内容の充実を図る。また、人権・「同和」教育特設ホームルームでの講演や視聴覚教材による授業、「いじめ」アンケートの実施と振り返り等を通じて、啓発活動を継続する。	宗教部	新型コロナウイルス感染症が下火になったことを受けて、年度当初から従来のスタイル(中学全学年、高校は各学年)でチャペルに集まって毎週のチャペルおよび前後期のミッション・ウィークを実施することができた。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
			2	中・高	中学3年沖縄修学旅行や「韓国への(からの)旅」等の交流プログラムによる平和学習の充実	平和学習の継続と充実	生徒と共に事前学習プログラムのさらなる充実を図り、中・高生が韓国を訪問し、現地の生徒たちとの交流活動を通じた平和学習を継続する。	宗教部	2018年の訪韓以来5年ぶりとなる「韓国の旅」を中高合計15名のメンバーで実施した。現地クリスチャンホームでのホームステイ、礼拝出席と共に、独立記念館、在韓国連墓地他を見学し平和学習を行った。また中3生の沖縄修学旅行はインフルエンザの感染防止に留意して実施することができた。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
			3	中・高	生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	生徒が主体的に参加するチャペル活動や奉仕活動の実施と充実	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等、生徒が主体的に企画するボランティア活動を継続し、さらなる内容の充実を図る。	宗教部	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等の寄託をはじめ、クリスマス献金や震災忘れない募金についても、多くの協力を得て実施した。また中高それぞれの生徒会が発案・企画した、能登半島震災被災者支援校内募金の実施に協力した。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
			4	中・高	地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラムの充実	外部組織との連携強化によるチャペル等の充実	従来と同様に、地域の教会の牧師や他のキリスト教学校の教員等にチャペル講師を依頼し、さらなる内容の充実を図り、他校やキリスト教事業体との協力による企画展の実施を検討する。クリスマスや震災復興支援の街頭募金、社会福祉施設訪問、キリスト教学校フェア参加、地域住民対象のコミュニティクリスマス実施等、現在の取り組みを今後も継続する。	宗教部	新型コロナウイルス感染症が下火になり、行動様式への制限が緩和されたことを受けて、中1～高2の5学年で聖書科「教会出席レポート」を実施した。またチャペルにおいても多くの教会から牧師を迎え、講話を担当していただいた。また、カルト問題対策として、キリスト教学校教育同盟の西南地区中高部会でカルト問題に関する研修を企画、学びの場を提供した。	A	

2023年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2023年度事業計画案	担当部署	2023年度事業報告案				
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2023年度の具体的計画内容	2023年度の具体的実施内容	評価	評価の理由	
人間育成	2	社会の担い手となるサーバントリーダー育成プログラムの充実	5	中・高	生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	サーバントリーダー育成プログラムの創設・展開	校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。	宗教部	12月の「クリスマス街頭募金」、「3月の震災わすれない募金」に加えて、2024年1月に起こった能登半島震災で被災された方々に届ける支援募金を中高それぞれの生徒会が企画して校内で実施した。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。	
				6	中・高	モラル・ルールに対する意識の向上	社会ルールの遵守に向けた指導徹底および意識啓発プログラムの充実	生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動への協力、被災地支援活動を今後も継続するとともに、地域からの意見や要望を収集するための方策についても検討する。	生徒指導部	震災が多く起こる状況に際し、迅速に計画を立てて、積極的に活動した。乗車マナーアップキャンペーンには、生徒会の日程が合わず、参加できなかった。	B	被災地への募金活動を中高両生徒会とも、宗教部と協力をして自発的に行った。
教育研究	1	カリキュラム・教科教育	1	中・高	教科教育の充実	生徒の学力向上と幅広い進路保障の確立	中学・高校ともに新学習指導要領に対応して編成されたカリキュラムを計画的に実践する。さらには、中学・高校の各教科において移行後の教育内容を検証し、教育内容のさらなる充実に向けた検討を行う。	教務部	高校2022年度入学生からの新学習指導要領に対応するカリキュラムの計画的実施は、現在進行中である。まだ2年目であるため、問題点の検証は現在行っている段階である。	B	未達成の部分がある。	
				2	中・高	ICT教育の検討	ICT教育システムの積極的な活用による生徒の主体的学習の促進	中学においては新1年生、高校においては新1年生(一般生)、教員においては新任者にタブレットを配付する。また、デジタル教科書や各種ラーニングソフト教材を導入し、生徒の主体的な学習推進と教員の校務改善を図る。また、校内PCおよび教員端末の全面入替と校務システムのクラウド化に伴う情報環境の整備、全生徒・教員へのタブレット導入完了に伴うWi-Fi環境の整備を推進する。	ICT教育委員会	2023年3月に校内PCおよび教員端末の全面入替と、タブレット導入完了に伴うWi-Fi環境の整備も完了した。現在は校内Wi-Fi環境を利用した学習環境を提供できている。	A	概ね達成できている。
				2	中・高	進路指導	キャリア教育(進路指導)体制および手法の見直しと検討	生徒の特性や希望に即したキャリア教育指導体制の確立	中学・高校ともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会等を継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育のさらなる充実に向けた企画を実際に実施していく。	進路指導部	高校については、例年同様に各種進路説明会、大学説明会を実施した。また、医療系学部の説明会も継続実施した。中学については、職場体験を継続実施することができた。	A
3	特別支援	4	中・高	特別支援体制の整備と充実	生徒の状況に応じた教育支援の確立	支援を必要とする生徒の情報を共有し、それを基にした具体的な個々の支援のための計画を立案し共有、実行して検証する場を設ける。様々な支援体制の充実に向けた校内研修を行い、関係機関との連携強化に努める。	総務部	支援を必要とする生徒情報の共有は校務支援システムの活用などもあり充実している。関係機関との連携については、引き続き強化に努める必要がある。	B	一部未達成である。		

2023年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2023年度事業計画案	担当部署	2023年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2023年度の具体的計画内容	2023年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究	4	総合的な「知」の探究	5	中・高	外部講師による講演会やチャペル講話の充実・強化	幅広い知識の修得による知的好奇心の醸成と精神的成長の促進	生徒に出会ってほしいと願う講師に関する情報を幅広く求めつつ、講話者にお迎えすることを通して、生徒たちが様々な新しい見解や知見に接する機会を増やす。	宗教部	長年、生活困窮者支援、沖縄基地問題に取り組んでいる牧師、NPOの職員などの助けを得て、社会の諸課題を知り、考える機会の提供に努めた。保護者バイブルクラスについても母の会の協力を得て2回実施した。	A	外部の多様な業界からの講師を迎え、新しい知見に接する機会を増やすことができた。
	5	教員の資質向上	6	中・高	研究授業の積極的展開	教員のスキルアップに向けた研究授業制度の確立	各教科を中心に、研究授業や研究発表を適宜実施して教科教育のさらなる充実を図るとともに、自主的な研究発表や勉強会への参加など、スキルアップのための支援を検討し、関係機関との連携強化に努める。	教務部	各教科において、研究授業を実施する計画を立てているが、実施は一部の教科に留まった。自主的な研究発表や勉強会などの活動についても支援ができなかった。	B	未達成の部分が多い。
国際感覚	1	グローバル社会の担い手の育成	1	中・高	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学生受入を含む)の充実	国際交流の積極的な展開によるグローバル教育の充実	高校訪豪研修、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプの実施と検証を継続するとともに、中学における海外研修プログラムおよびターム留学制度を検討し、受入クラスの割当や具体的な支援体制等、海外からの留学生受入に際してのルールを策定し、校内制度としての明文化を検討する。	総務部 教務部	高校生対象で行われていた訪豪研修旅行について、2023年度より中学生も対象として実施された。また、ピース・メイキング・プログラムやインターナショナル・デイ・キャンプなどについては、一部実施困難なものもあったが、やり方を変えて実施した。加えて、ターム留学や国際交流委員会から案内した海外研修プログラムにも多くの生徒が参加した。受け入れに関しては、現況として、高等学校では、留学生単独で来日するため、日本での生活面のサポートまで可能な団体からの依頼に限って引き受けを行っている。中学校では、保護者が日本におられる状況が多く、柔軟に対応している。その他も含め、受入制度の明文化について検討する機会を持った。	B	受け入れに関しては以前と変わらない形になっており、それを検証して行くにとどまっている。

2023年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2023年度事業計画案	担当部署	2023年度事業報告案				
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2023年度の具体的計画内容	2023年度の具体的実施内容	評価	評価の理由	
国際感覚	2	英語教育のさらなる強化と拡充	2	中・高	全生徒に対する英語力の全般的な向上	英語を活用したコミュニケーション能力の向上	オンライン英会話授業の運用状況と効果測定について、英語科を中心に検証し、必要に応じて運用計画の見直しを行う。また、生徒のさらなる語学力量向上に反映させるための方策について検討する。	教務部	オンライン英会話は引き続き実施している。	B	運用計画の見直し・検討については実施していない。	
				3	中・高	GTEC等の英語力の学外指標の導入	大学入試対策に合わせた英語力の向上	英語外部検定試験(GTEC)を計画的に実施し、英語科と協力しながら実施後の検証を行うとともに、入試において英語外部検定試験が利用できる大学の情報を収集し、生徒へ提供する。	教務部 進路指導部	GTECに関して、高校については例年同様検定版を受験することができた。大学によっては、学校版GTECは使用を認めないこともあるため、高3学年会で他の検定試験についても情報共有をおこなった。中学校についてはアセスメント版を高校1,2年と同日に実施する予定だったが、部活動の公欠等が多かったため、日程を平日に変更して実施した。平日実施のほうが生徒のモチベーションに好影響があったため、2024年度についても平日実施とする計画である。	B	高校生については、毎年受験することにより生徒の意識も向上しているようである。GTEC以外の検定については学校実施には至っていないが生徒への情報提供をおこなうことにより多くの生徒が各自で検定を受けるようになってきている。
地域貢献	1	地域における貢献活動	1	中・高	ボランティア活動やイベント等の地域貢献活動・地域福祉活動の充実	地域貢献活動の充実に向けた組織と制度の整備	校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。また、本校からの出前授業や一般中学生の本校訪問、PTA学校訪問の受入等、地域住民・保護者への情報提供を目的とした活動を今後も継続し、参加者からの意見や要望を収集するための方策について検討する。	宗教部 総務部 生徒指導部	12月の「クリスマス街頭募金」、「3月の震災わすれない募金」に加えて、2024年1月に起こった能登半島震災で被災された方々に届ける支援募金を中高それぞれの生徒会が企画して校内で実施した。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた	
				2	中・高	災害発生時の避難場所提供等の防災協力体制の充実	地域防災の充実	本校近隣の地域住民に向けた防災協力体制(防犯対策や交通安全対策を含む)や具体的内容、情報共有のあり方について近隣の青少年育成協議会から情報を得ながら継続して検討する。	総務部 事務室	学校行事等の状況が許す限り、西南学院小学校と共に、地域の協議会に参加することができた。交通安全面では、高校生の自転車通学時のヘルメット着用が校則化され、福岡県のモデル校となったことが地域からの信頼を強めた。	A	概ね達成することができた。
				2	中・高	百道浜自治協議会との連携強化	連携のための組織および制度整備による地域との関係性の向上	地域との連携に向け、自治協議会関係者との情報交換や懇談、地域住民からの意見や要望を収集するための方策について検討する。	総務部	地域の自治協議会に積極的に参加し、地域の情報収集や地域住民からの意見を聴取することができた。	A	概ね達成することができた。

2023年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画						2023年度事業計画案	担当部署	2023年度事業報告案		
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2023年度の具体的計画内容		2023年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
経営基盤 ①経営体制の充実・強化 ②健全な財務基盤の確立 ③社会的責任の遂行	1	運営管理体制の強化	1	中・高	危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化	危機管理体制および設備・機器の整備による生徒・教職員に対する安全管理の向上	危機管理マニュアルの整備や防災備蓄計画についての検討を継続する。特に危機管理については、時代の変化に伴い、サイバーセキュリティ等、これまで想定されてきた危機的な状況とは異なるものに対応できるような体制を構築する。	総務部 事務室	危機管理マニュアルの整備や防災備蓄計画についての検討が継続され、本校備蓄品について消費期限の半年前に生徒教職員に配付した。災害時に配付されるものを口にする事で、生徒・教職員の防災意識は多少とも向上したと感じられる。	B	個人情報管理に留意したサイバーセキュリティの強化等については検討できていない。